

AIDS

予防と共生のための
基礎知識

話し合おう

エイズ

監修：財団法人 エイズ予防財団

世界と日本のエイズ発生状況

世界では!

地球規模の流行拡大は深刻な問題!

2007年12月にUNAIDS(国連共同エイズ計画)が発表した全世界でのこの1年間の推計値は、

- 2007年末の時点で、生存中のHIV感染者数は約3,320万人
 - HIVに新たに感染した人は、約250万人
 - エイズによって死亡した人は、約210万人
- となっています。また、東アジアおよび太平洋地域では2007年に92,000人の成人と子どもが新規感染したと推定され、増加が続いています。

日本では!

同性間性的接触による感染者が急増!

- 日本では、2007年1年間におけるHIV感染者/エイズ患者の報告件数が1,500件となり、過去最高となりました。
- HIVの感染経路は性的接触がほとんどで、異性間が20.4%、男性同性間が67.4%で、合わせて87.8%を占めています。
- HIV感染者とエイズ患者を合わせた報告数では、これまで特に多かったのは、東京都および関東・甲信越、近畿、東海地域ですが、中国・四国、九州ブロックでも増加傾向にあります。

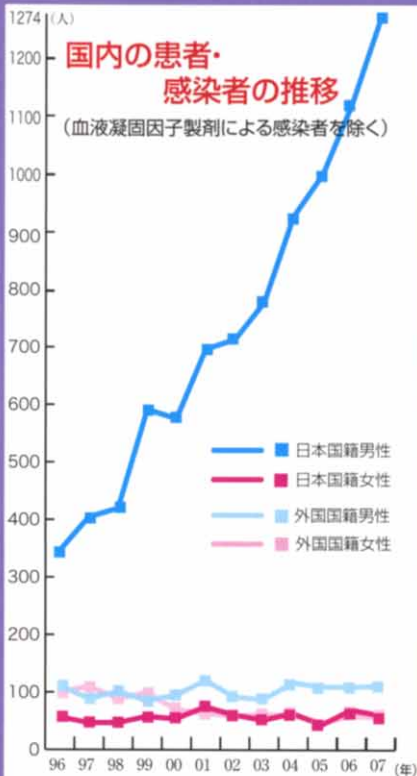
西・中央
ヨーロッパ
76万人
3.1万人

中近東・
北アフリカ
38万人
3.5万人

中央アジア
東ヨーロッパ
160万人
15万人

サハラ以南
アフリカ
2,250万人
170万人

2007年末 UNAIDS/WHO報告 世界のHIV感染者数



原因別にみた感染者・患者数 (累計)

感染の経路	HIV感染者	エイズ患者
異性間の性的接触	3,325人	1,915人
同性間の性的接触 注1	4,806人	1,402人
静脈注射濫用	46人	36人
母子感染	32人	17人
その他 注2	221人	145人
不明	1,523人	1,156人
合計	9,953人	4,671人注3

凝固因子製剤による感染者 注4 1,438人

注1 両性間性的接触を含む。

注2 輸血などに伴う感染例や推定される感染経路が複数ある例を含む。

注3 平成11年3月31日までの病状変化によるAIDS患者報告数154件を含む。

注4 「血液凝固異常症全国調査」による2007年5月31日現在の凝固因子製剤による感染者数。

* エイズ動向委員会報告より(2008年6月現在)



東南・南アジア

HIV感染者推計総数: 400万人
2007年の新規感染者推計数: 34万人

東アジア・太平洋地域

HIV感染者推計総数: 80万人
2007年の新規感染者推計数: 9.2万人

北アメリカ

HIV感染者推計総数: 130万人
2007年の新規感染者推計数: 4.6万人

西インド諸島

HIV感染者推計総数: 23万人
2007年の新規感染者推計数: 1.7万人

オセアニア

HIV感染者推計総数: 7.5万人
2007年の新規感染者推計数: 1.4万人

ラテンアメリカ

HIV感染者推計総数: 160万人
2007年の新規感染者推計数: 10万人

※報告された数値の範囲から平均値を算出

こんなことでは 感染 しません

HIV は含まれる体液が血液・精液・膈分泌液・母乳に限られています。
熱や塩素にも弱く、少量では感染しません。
ですから、社会生活での接触による感染や空気感染の心配はありません。



- バス
電車のつり革
- お金
- 公衆電話
- カラオケマイク



- ペット
- 咳
- くしゃみ
- おしゃべり
- 食器類の共用
- 蚊、ハエ

- 握手
- 理・美容院
(日本)
- 献血する



- 銭湯
- プール
- 洋式トイレ

HIVの 感染を 防ぐために

感染経路で最も多いのは、性的接触による感染です。

その予防には、より安全なセックス(セーフター・セックス)を心がけることが大切です。

★コンドームは感染予防に有効です

自分も相手も100%感染の可能性がない場合以外は、必ずコンドームを正しく使用します。



コンドームには女性用のものもある。女性の膣内に挿入して使用するため、自らの意志で使用できる。男性用との併用はダメ。

とくに、アルコールの飲み過ぎは、抑制力を弱め判断力を狂わせ、危険な性行動の可能性を高めることがあるので要注意。

ワセリンやオイルはコンドームを傷めるので使用しない。

★いつでも節度ある性行動を心がけましょう

★コンドームは品質保証されたものを使用しましょう

危険!

注射器具の共用も、 HIVの主要な感染経路です

麻薬はどんなものでも手をださないこと。とくに麻薬注射の回し打ちは、血液が直接体内や血管に入るため感染率が非常に高いので、一度でも麻薬注射の経験がある場合は、すぐにエイズの検査を受けてください。



Q 「学校や職場、近所づきあいで、感染者と接触しても大丈夫ですか？」

A 大丈夫です。HIVは感染経路がはっきりしていて、性的接触や血液の扱いに注意すれば充分です。



Q 「HIV 感染者かどうか外見から知る方法はあるの？」

A 健康人と変わらない無症候期が長いので、外見や体調から感染しているかどうかを判断することはできません。外見で判断するという考えは、差別や偏見を生むだけです。

Q 「感染したのは本人の責任ではないのですか？」

A 過去には血液製剤で感染した人もいますし、母子感染した人もいます。性的接触での感染も買売春で感染した人ばかりではなく、愛する人のHIV感染を知らないままに、感染してしまった人が多くいます。

Q 「ケガをしている人の血がついたけどエイズの心配は？」

A 血液はHIVだけでなく肝炎ウイルスなどの病原体の感染源ともなりうるので、他人の血液に触れた場合には、すぐに流水と石鹸で洗い流してください。HIVは健康な皮膚から感染することはありません。

Q「コンドームは絶対に安全ですか？」

A 100%安全ではありません。なぜなら、コンドームははずれたり破れたりするからです。しかし品質保証のあるコンドームを最初から最後まで正しく使用すれば、感染防止に極めて有効です。



Q「日和見感染症って何ですか？」

A 健康なときには体内で増殖できなかった微生物（カビ、細菌、ウイルスなど）が、HIVの感染による免疫機能の低下によって増殖を開始し、さまざまな感染症をひきおこします。この症状がまるで「日和見的」なので、日和見感染症と呼んでいます。エイズ指標疾患の中では、ニューモシスティス肺炎、カポジ肉腫、カンジダ症などが代表的です。

Q「エイズは男性同性愛者の病気ではないのですか？」

A もちろん違います。誰でも、エイズになる可能性があります。最初はもちろん男性同性愛者に流行したため、「特別な人がかかる病気」という印象がまたたく間に世界中に蔓延してしまい、エイズ患者に対する差別と偏見を生んでしまったのです。

この冊子販売による収益の一部は、日本エイズストップ基金に寄付されます。

© 2009 グラフィックインターナショナル株式会社 〒340-0022 埼玉県草加市瀬崎町1192-3-104 TEL:048-922-9821 (禁無断複写・転載)